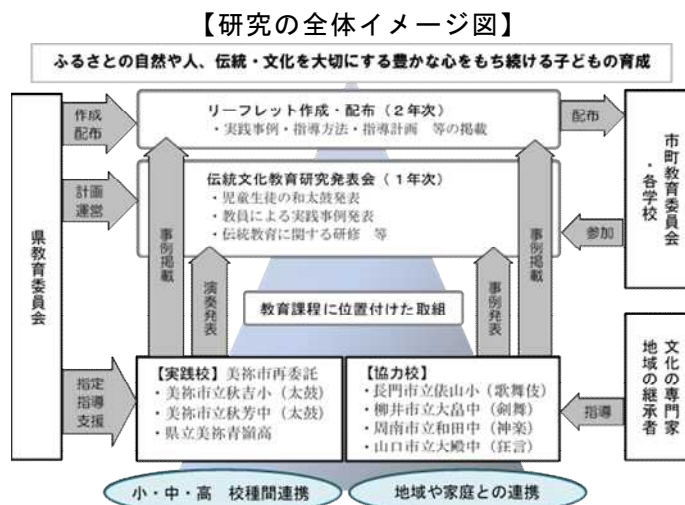


1. 推進地域の現状と課題及び調査研究の目的

【研究の目的】

- ふるさとの自然や人、伝統・文化を大切にする豊かな心をもち続けるとともに、地域や社会の形成に主体的に参画し、その発展に寄与する人材の育成に向けて、各学校の教育活動の改善を図る。
- 研究指定校 7 校（実践校 3 校＋協力校 4 校）の好事例の紹介及び普及等を通して、県内全ての学校における伝統や文化に関する教育の一層の充実を図る。
- カリキュラム・マネジメントの観点から美祢市をモデル地区として、実践校 3 校（美祢市立秋吉小・秋芳中・県立美祢青嶺高）の取組を整理し、「学校・地域連携カリキュラム」を作成する。



☞ 実践校では、「伝統・文化」を軸に「学校・地域連携カリキュラム」を作成し、教科等横断的な視点による取組や地域資源の有効な活用等により「社会に開かれた教育課程」の具体的な姿をあらわすこととする。

【美祢市の実践校の課題】

- 育成すべき資質・能力と教育活動との関連が明確になっていない
- 各学校の取組が単発的なものにとどまっている
- 校種間の連携が十分に進んでいない

☞ 学習指導要領の改訂を受け、学校が育成すべき資質・能力を明確にするとともに、これまでの取組を効果的かつ持続可能な学習として継続・発展させることができるように、年間指導計画の見直しや各種行事等の位置付け、各種団体と学校の間係を整理し、カリキュラムの再構築を行うことが必要である。

また、和太鼓の演奏活動のように、小・中・高がそれぞれで活動しているため、校種間連携を意識するまでには至っていない現状があり、小・中・高が一緒に参加することができる行事や会議等を開催することが望ましい。

【目標指標】

- ◎ 県内全ての学校を計る指標（全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査から）
 - ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合：増加させる
- ◎ モデル地区の実践校・協力校を計る指標（実践校及び協力校のアンケート調査から）
 - ・「今住んでいる地域にある『もの』や『こと』、『場所』に関心がある」児童生徒の割合：増加させる
 - ・「今住んでいる地域について学習することは役に立つと思う」児童生徒の割合：増加させる
 - ・「今住んでいる地域がよりよい地域になるために、自分が何をしたらよいかを考えることがある」児童生徒の割合：増加させる

2. 調査研究の実施内容

(1) 具体的な実施内容 類型【 I・II 】

① 伝統や文化に関する教育推進協議会等の開催

〈平成 29 年度〉

◎平成 29 年 11 月 1 日 第 1 回山口県伝統や文化に関する教育推進協議会

■所管説明：我が国の伝統や文化に関する教育について

■グループ協議「伝統や文化に関する教育の充実に向けて」

◎平成 30 年 2 月 14 日 第 2 回山口県伝統や文化に関する教育推進協議会

■所管説明：伝統や文化に関する教育の充実について

■講演「福島県飯舘村の伝統や文化に関する教育～ふるさとを新生するいいたてっ子の学び～」福島県相馬郡飯舘村立草野・飯樋・白石小学校長 吉川武彦様

◎平成 30 年 2 月 14 日 山口県伝統や文化に関する教育研究発表会

■実践校による取組発表

■拡大版「たくすセレモニー」

・秋吉小学校児童による引継式，秋芳中学校生徒・秋吉小学校児童による太鼓演奏



〈平成 30 年度〉

◎平成 30 年 8 月 2 日 第 1 回山口県伝統や文化に関する教育推進協議会

■講話「和田学のすすめ 新たな展開」周南市立和田中学校長 中村浩様

■グループ協議

・「山口県伝統・文化教材集」の効果的な活用に向けて

・各市町教育委員会における副読本や児童生徒用教材等の作成・活用について

◎平成 31 年 2 月 12 日 第 2 回山口県伝統や文化に関する教育推進協議会

■実践校による報告「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」

■協力校による報告

■パネルディスカッション（実践校及び協力校の取組に関する質疑応答・協議）

② 伝統や文化に関する教育の充実を促すモデル・カリキュラムの作成

③ 伝統文化教材集の改訂

山口県の教材を紹介するとともに、それらを活用した指導の展開例等を掲載。

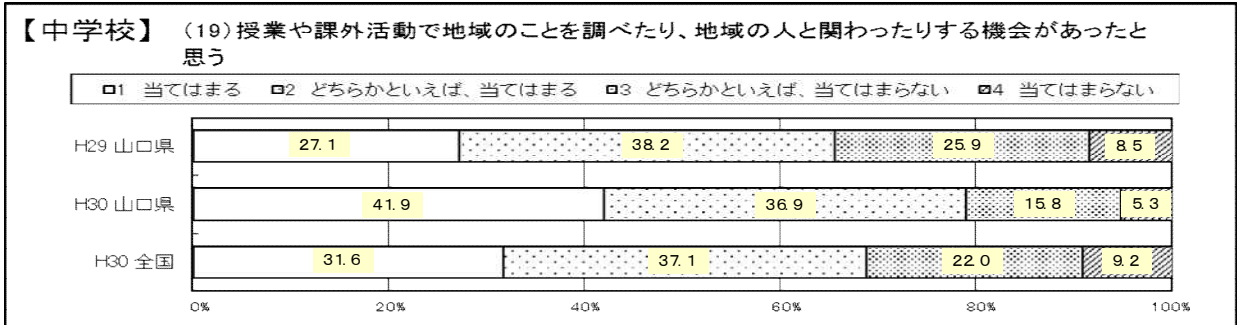
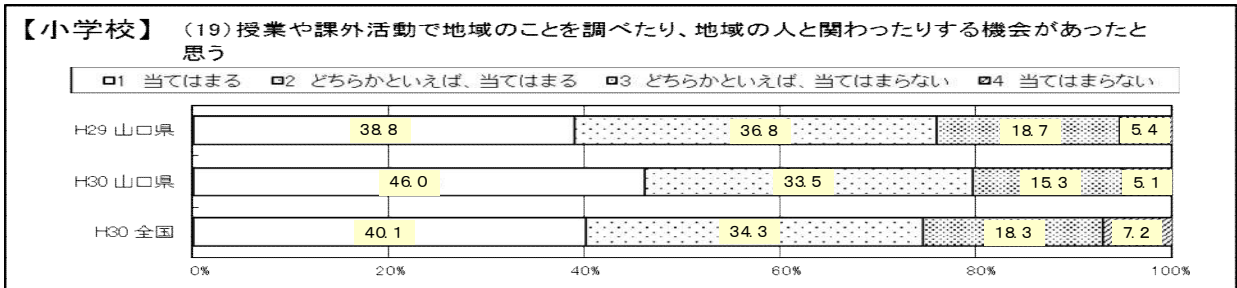
（平成 22 年度：第一版・平成 26・27 年度：第二版・平成 30 年度：第三版）

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/sidouyouryou/kyouzaisyu2.html>

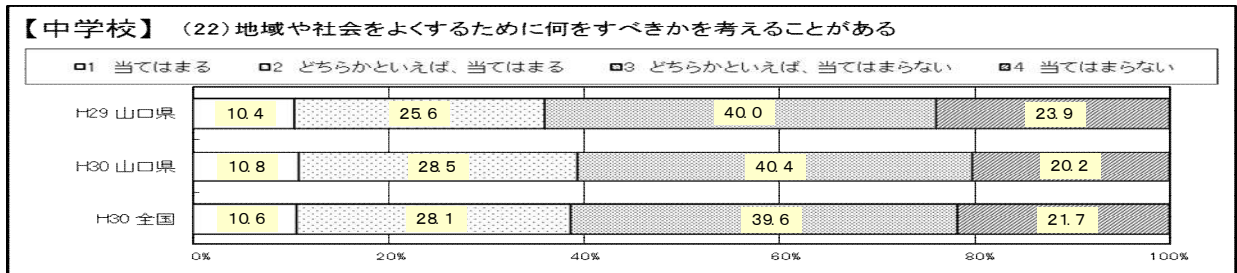
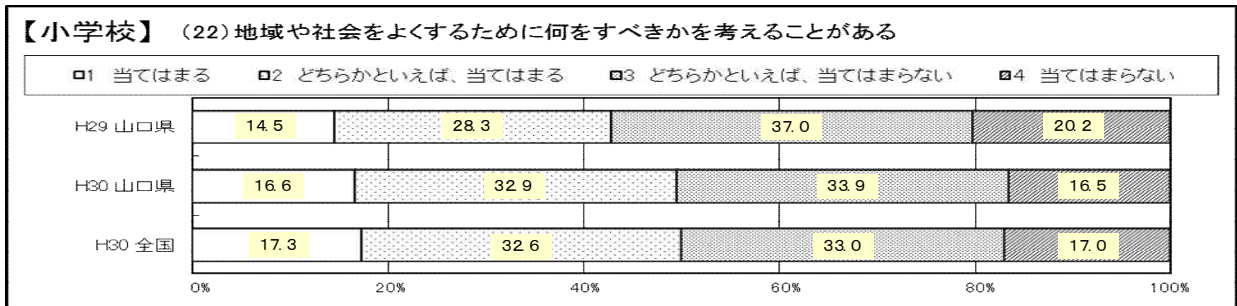
（2）成果の検証

【県内全ての学校を対象にしたアンケート】

「授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会があったと思う」児童生徒の割合

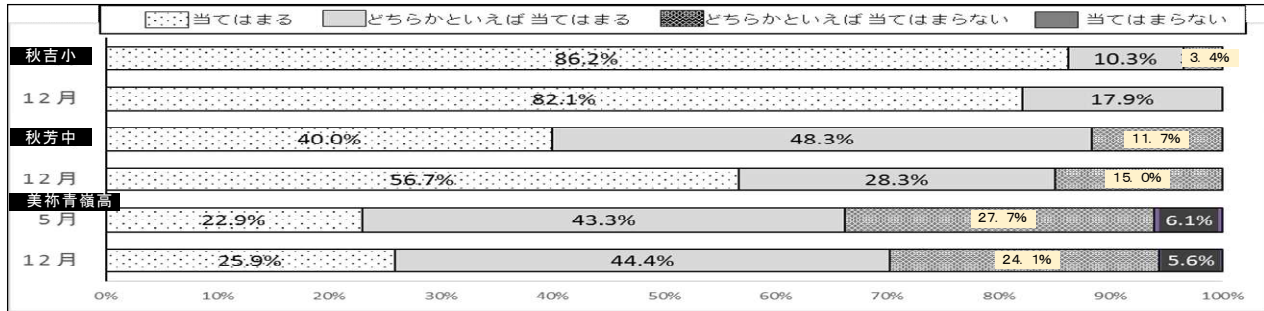


「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合

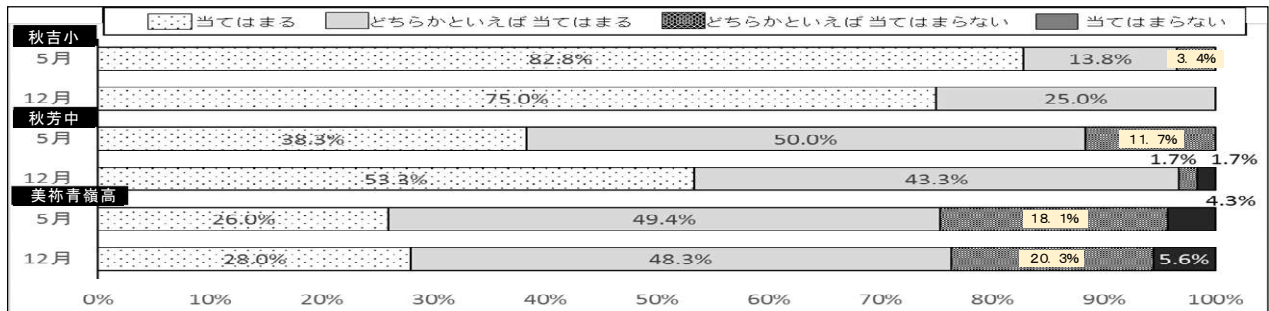


【実践校を対象にしたアンケート】

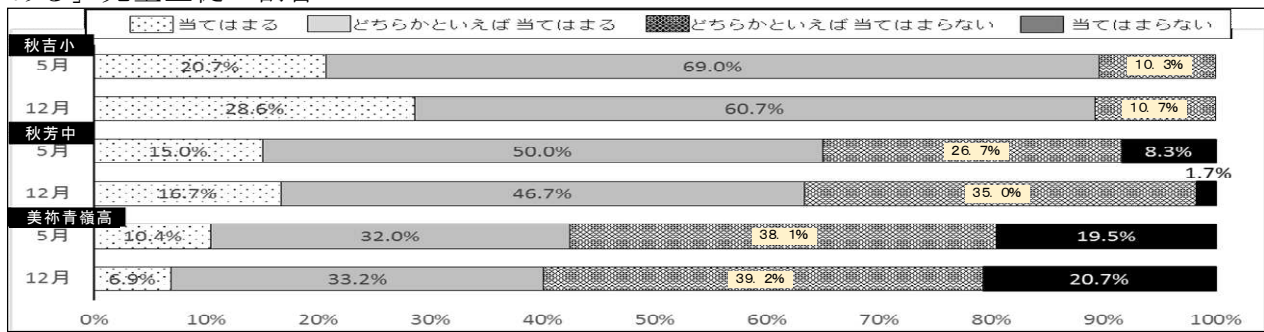
「今住んでいる地域にある『もの』や『こと』，『場所』に関心がある」児童生徒の割合



「今住んでいる地域について学習することは役に立つと思う」児童生徒の割合



「今住んでいる地域がよりよい地域になるために、自分が何をしたらよいかを考えることがある」児童生徒の割合



3. 実施体制

① 山口県伝統や文化に関する教育推進協議会

〈目的〉県全体の伝統や文化に関する教育の充実を図るため、情報共有し、課題を把握する。

〈構成〉県教育委員会関係者，各市町教育委員会担当主事，研究指定校関係者

② 「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」運営委員会

〈目的〉実践校の取組を充実させるため、研究の方向性や視点，具体的な内容等を検討する。

〈構成〉県教育委員会担当主事，実践校関係者

4. 今後に向けて

【主な成果】

○これまで単発的に実施していた学習を一覧に整理したことで、互いのつながりを俯瞰して見ることができた。

○小・中や中・高で地域資源の活用に関するアイデアを共有することができた。

○様々な教科の学習を構想したことで、地域資源の活用の可能性を広げることができた。

【主な課題】

○今回のカリキュラム例は、各学校の取組を整理しただけにとどまっているため、今後、各学校の理念や育成すべき資質・能力を明確にして、見直しを継続させる必要がある。